

ダンボールを使った生ゴミ処理

ダンボールを使って生ごみを減量・堆肥化にすることが注目されています。実際に3ヶ月間、生ごみを入れてテストしてみました。

このテストは、市民団体の「循環(くるくる)ネットワーク北海道」が考案した方法に基づいて実施した。



ピートモスと
もみ殻燻炭

中に入れる発酵機材は、ピートモスともみ殻燻炭を6対4の割合で混ぜます。これらは、園芸店やホームセンター等で市販されています。

生ごみの減量率(週平均)



■ 1日550gの生ごみを投入。

■ 3週目からは生ごみの分解が活発になった。4週目以降は80%台になり最終時は、88.6%だった。

● 3ヶ月にわたって、テスト期間中に投入した総生ごみ量(41kg)が約10/1(4.7kg)に減量されたことから、ダンボール箱を利用した生ごみの減量効果は高いといえます。

● 蓋をした状態では臭いもあまり気になりません。

● アドバイス ●



1

ダンボールは厚めのものを使用し、テープは内側・外側両方貼って強度を高めるとよい。



2

大きい生ごみは、小さく切ってから入れると発酵分解が進む。



3

室温は15℃以上の場所に設置し、毎日ていねいに攪拌する。



4

少量ずつ入れるよりも、ある程度まとまった量を入れたほうが分解しやすい。

詳しい作り方は「循環(くるくる)ネットワーク北海道」へお問い合わせください。(月～金曜日10:00～15:00)

011-709-5751